

日銀の視点

昨年11月から12月にかけて、県金融広報委員会（事務局・日銀水戸事務所）が委嘱した「金融・金銭教育研究校」である龍ヶ崎市立龍ヶ崎小、那珂市立第三中、県立高萩清松高の3校において、研究発表会が開催された。拝見し、感銘を受けた点を紹介したい。

日銀水戸事務所長 上野 淳

本県勢大活躍 金融教育

て、幅広く、「お金や金融のさまざまな働きを理解し、それを通じて自分の暮らしや社会の在り方について深く考え、自分の生き方や価値観を磨きながら、より豊かな生活やよりよい社会づくりに向

設定を行い、取り組んでいく。第二に、上記の認識の下、生徒児童が自ら体験したり、自ら考えたりする機会が、多く提供されていた点である。例えば、複数の学校で、生徒

ために必要なお金を考えさせるなど、さまざまな取り組みが見られた。第三に、金融教育の目的を達成するため、よく練られた全体計画の下、学年をまたいだ教科横断的な取り組みで成果を高めている

先生方には改めて深くお礼申し上げます。県内の金融教育を巡っては、他にも大変喜ばしいニュースがあった。第21回「金融と経済を考える」高校生小論文コンクール（金融広報中央委員会主催）で、霞ヶ浦高の斎藤彩葉さんが特選・日本銀行総裁賞を、第19回日銀クランプリ「わが国の金融・経済への提言」（日本銀行主催）で、常磐大学総合政策学部のチームが優秀賞を、それぞれ受賞したのである。今後も、関係者の皆さまとともに、県内の金融教育を盛り上げていきたい。

（次回は3月9日掲載）

けて、主体的に判断し行動できる態度を養う教育」（金融広報中央委員会「金融教育プログラム」と捉えており、生徒児童が「生きる力」を育むことに資するものと考えている。各校とも、こうした認識を踏まえた研究主題

児童自身が実際に商品を作り、販売するという学習が行われていた。グループで議論して決めた販売価格や宣伝方法などを、元気に発表する姿が印象的であった。その他にも、65歳までのライフプランを作成させて、夢を実現する

徳、総合的な学習といった教科に加え、保健体育の授業で健康が経済的な負担の抑制につながることを学ばせたり、清掃の時間を勤労の貴さを理解させるために活用するなど、さまざまな工夫が見られた。〇尽力いただいた3校の